

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		ひなどり学園		公表日		令和7年2月12日		利用児童数		48名 (47家庭)		回収数		38名 (38家庭)	
		チェック項目						ご意見	ご意見を踏まえた対応						
			はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	無回答								
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	33	5				現在の子どもの人数には狭いと感じる。	制度に基づき必要なスペースは確保しているが、活動内容に応じたスペース・個々に適したスペースが十分確保されるよう、引き続き、活動内容や施設内設備も使用しながら工夫する。						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	36	1		1		職員が多く、丁寧に見てもらっている。職員の体制については不満はないが、男性の保育士等がいてくれるとありがたい。	性別に依る採用計画はないので、今後も性別に関わらず、本園の保育理念や支援に当たる姿勢に共通理解が得られる人材の確保・育成に努める。						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	4	1	1		園舎が歴史ある建物なので、建物自体は暗い雰囲気を感じてしまう。先生方は温かい笑顔で保育してくれている。限られた環境の中で、先生方が苦労してその環境を作っているように感じる。	将来の建て替えや施設整備に向けて、経済面の安定改善に引き続き努める。また、保育室内の間取りや座席の配置等の採光を意識した配慮・掲示物や装飾等の与える雰囲気意識した配慮を合わせて行う。						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	31	6		1		園舎の古さは否めないが、日々清潔な環境を作ってくれている。	現園舎を清潔に保てるよう、掃除の徹底等は引き続き行う。						
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33	2		2	1								
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34	2		2									
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	35	1		2		子どもの成長に関しての課題の提案等がほしい。	お子さんの発達ニーズを客観的かつ適切に理解するためのアセスメントが行えるよう、また、保育の視点や息遣い・今後の見立て等についての確かな助言ができるよう、職員の資質向上のための園内外の研修機会を増やす。						
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	35	1		2		本人の欲求をしつかり汲み取ってくれている。							
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	36	1		1									
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	34	2		1	1								
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	6	15	11		必要性を感じていない。	具体的・継続的な機会としては設定していないが、出かけた先などで偶然発生的に交流が生まれることがあり、その機会は大切にしている。園としては保育所や幼稚園との一律的な交流がすべての児童に必ずしもプラスに働くわけではないと理解するので、こどもや保護者のニーズを丁寧に受け取りながら、交流の在り方や必要性を今後も慎重に議論したい。						
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	37	1												
13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	37			1										
14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	29	5	2	2										
15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	37			1										
16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	35	1		2		希望したら定期面談以外にも話す機会を作ってくれたり、普段の連絡帳でのやり取りでも助言等してくれるのでありがたい。送迎時にも相談ののってくれている。								

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	38					とても共感的。この園の特徴ではないかと思う。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	6	1	4		きょうだいへの取り組みは無かったように思う。 ママ友会・パパ友会が定期的に行われていないと思う。きょうだい同士の交流もあれば、尚更ありがたい。	きょうだい向けとしては設定していないが、ご家族参加の行事の中で、きょうだい児さんたちにも参加していただける機会を設けた。今年度は頻度は多くなかったが、きょうだい同士の交流だけでなく、他のひな祭りや園児や職員と触れ合える機会にもなればと考える。また今後は、遊びながら交流できる場の提供も試み的に予定している。 保護者同士が交流できるような場や機会は、今後も、ご家族の要望を適切に把握しながら設けていく。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	37				1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	38						
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	25	9	1	2	1	インターネットを使用したZOOM等の導入を検討してほしい。	運用に係る経費や人的な問題も含めて、今後の検討課題とする。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	32	3			3	全面的にとても信頼している園なので、気になったこともない。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	33	1			3	1	各マニュアルは策定・訓練は行っているのですが、今後も安心して通園していただけるよう各家庭への周知に努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	37					1	地震や火災を想定した避難訓練は月1回必ず、こども達も参加のもと実施している。また、消防署立ち合いの避難訓練や救命講習等のほか、災害時伝言ダイヤルの講習なども随時行っている。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	36					2	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	36	1				1	小さなケガなども速やかに連絡してもらっている。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	38						
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	36	1	1				園が悪いのではなく、家で過ごしたい思いが強い。 毎日楽しく通っている。 とても楽しみにしています。 いつも笑顔で帰ってきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35	1				2	大満足！大好きです！

事業所における自己評価結果

事業所名	ひなどり学園		公表日	令和7年2月12日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		集会場・多目的棟などの同敷地内の施設も、活動内容に合わせて活用している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		一日のスケジュールをパネルにして掲示したり、こども達にとって必要な情報・ものを捉えやすいよう整理したりと、話し合いながら工夫している。	建物の構造上、部屋の扉がスライド式にできないため安全面の配慮が必要。指はさみ等のケガを防ぐための対策を、今後もしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>			園舎の老朽化は否めないが、将来の建て替えや施設整備に向けて経済面の安定改善とともに、日常的な環境整備に一層努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて空いている部屋や廊下・衝立なども使用し、活動や個々の状況に合わせた空間が確保できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者向け評価表の集計結果を職員全体で共有し、保護者のニーズを再確認すると共に支援の質の向上への参考にしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		全体的な場としては、月に1回以上、職員会議を行っている。また、個別の意見も園長が随時聞き取り、反映できるようにしている。	従業員向け自己評価表の結果を踏まえ、職員間で検討する機会をより増やしたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		行政の指導監査の指摘事項を全体で共有し、業務の見直しや改善に繋げている。	民間団体の外部評価の機会の必要性を、今後も検討課題とする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			法人のホームページ上に掲載しているが、より周知に努める。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>			適切なアセスメントが行えるよう、今後も継続的な学びが必要であるので、園内外の研修機会を増やす。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		担当職員や児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に当たる職員が可能な限り参加し検討会議を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		支援計画の内容を全体で共有した上で、支援に当たっている。会議に参加が難しい場合も書面で共有し、いつでも確認しやすいよう保管している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			適切なアセスメントのため、継続的にシートの見直しを検討する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>			家族支援を支援計画に明記するには配慮を要するため、どう計画に反映させ、また文庫化するべきか、引き続き課題である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		発達特性や活動ベースに応じたクラス活動や縦割りグループでの活動、それぞれの集団での園外活動、全体行事と様々なプログラムを試みている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>			

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		家族への個別支援の観点から延長保育を行っている本園の体制上、全体での振り返り時間を毎日確保するのは困難だが、可能な限り随時行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個々の支援計画と記録を対応させてファイルし、日々、計画と支援内容・経過を確認しやすいようにしている。	子どもや保護者への直接的支援へ向ける時間を重視しようと思えば、書式の見直し等は今後も継続して行いたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		北区子どもはぐくみ室・保育所・幼稚園等で構成される「北区子ども発達支援ネットワーク」に参画。関係機関との連携・協力体制の強化に努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		個別に引継ぎや申送りし、移行後も必要に応じて参観や行事等同行もしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		入園前に在籍していた児童発達支援事業所や就学後に利用予定の放課後等デイサービス事業所等と連携を取り合っている。	今年度より訪問支援事業も始まり、事業所間の関係づくりにより努めたい。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		関係行政の監査(年1回)のほか、他センターなど第三者による評価を受ける機会があり、外部の職員研修にも参加している。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		京都市障害者自立支援協議会児童専門部会・京都市北部障害者地域自立支援協議会児童部会・北区子ども発達支援ネットワーク会議等に参画している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		保育所や幼稚園等で適応が困難で転園に至っているこどもも多く、交流が負担にならないよう十分検討したうえで、インクルージョンの観点からも様々な可能性を探りたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○				
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		毎年4月に保護者懇談会を開催し、説明している。また、運営規定を園舎玄関に設置し、閲覧できるようにしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画作成時には個別懇談の機会を設ける他、ご家庭の状況に応じて電話対応もしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定例の個別懇談以外にも、保護者の要望に応じて随時行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだいで交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		園主導で勉強会や情報交換会等を企画し、保護者同士の交流の場を増やしている。	きょうだい児に限定した交流の場は設けられていないが、試みに開催予定。ご家族の移行を把握しながら、今後も交流の形を検討したい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		こども一人ひとりに担当を決めており、その職員が窓口となり対応する。横断内容によっては、より適任者が当たるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域の自治連合会との関りを重視している。	園行事に地域住民を招待することは物理的スペースの問題・在園児童への影響・プライバシー保護の観点等からハードルが高い。「地域に開かれた」は多様な捉え方に基づくべきと考える。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは策定しているが、防犯対策の想定訓練は今後より内容を充実させたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	入園時の個別オリエンテーションで、お子さんの身体状況や発作時の対応等を保護者より聞き取りをしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	○	アレルギーの有無を保護者から聞き取りをし、医師の指示書に基づき対応している。保育担当職員と調理担当職員とで情報共有できる場を設けているほか、食事の提供時には複数人で確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	年間の安全計画を作成し、救命講習の受講・外出先の下見や安全面（危険箇所）の確認等随時行い共有している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		緊急時の対応等は職員間で共有しご家庭とも確認しているが、懇談会などの機会に園の方針を随時説明し、より周知できるように努める。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット事案が発生した際、その日のうちに要因や対策を検討。口頭および書面ですべての職員に共有できるようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	定期的に不適切処遇・対応防止に向けた研修を実施。法人の虐待防止委員会と併せて、ひなごり分会を設置している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束を要することもは在籍していないが、そうした事案が生じた場合、左記の内容の徹底を図る。	

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひなどり学園		
○保護者評価実施期間	令和6年12月17日		～ 令和6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47家庭	(回答者数) 38家庭
○従業者評価実施期間	令和7年1月13日		～ 令和7年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の発達支援及び家族支援等に従事する職員の大半をキャリアのある職員が占めており、組織全体の専門的スキルが年次着実に向上しているため、児童の多様な発達ニーズや障害特性に対応することができる。	職員の定着が促進するよう処遇改善や職場環境の整備等を法令に基づき取り組んでいる。また、組織強化に必須となる個々のスキルアップを目標とし、若手・中堅職員の育成プログラムとしてテーマを設けた園内研修を定期的に行い、スーパーバイズに当たる職員についても外部研修等に随時参加している。	児童への直接的な支援についてはスーパーバイザーによるコーチングや内外の研修で知識・技量両面で人材育成を図れる一方、保護者対応において求められるのは、自らの実践を論理化・言語化し、伝える力である。但し、これらはトレーニングすれば一気に習得できる力ではないので、当園が基本とする実践理論や支援のねらい等について文章化し、職員が周知・理解することで平準化を目指したい。
2	児童一人ひとりに担当職員を決めており、担当職員は児童のキーパーソンとして、日常生活面におけるきめ細かな支援を心掛けている。また、児童の発達や活動ペースに合った集団活動の機会を提供し、児童がお友だちとのさまざまな体験や経験を通じ、喜びや楽しさを周囲と共有することで心豊かに育っていけるような学びの場となっている。	活動の内容や意図に応じて、全体或いは縦割りさらには学年年齢別の集団編成で支援を提供している。例えば、新入園や年少の児童らが活動に安心して臨めるためには手本となる集団の動きが必要となるので、こうした場合は全体或いは縦割り編成で、また児童同士が横の繋がりを年次意識し、連帯感や協調性を養い、相互に支え合ったり助け合ったりすることの大切を学ぶ機会としては学年年齢別編成での活動場面を設けている。	社会生活に必要な力である社会性を身に付けられるよう園の中だけで活動を完結するのではなく、園外での社会体験の機会を今までも重視してきた。公共施設の利用、社会見学、遠足等の園外活動の内容をより充実させたい。また、保護者参加の大きな行事を学期ごと1～2回は毎年実施している。おまつり行事のような「親子で楽しむ」を目的とするもの、クリスマス発表や卒園式のように「児童の成長を見て貰う」を目的とするもの、双方共に趣向を凝らし、内容の充実を引き続き図りたい。
3	家族が安心して子育てを続けられるよう、児童の発達に関する悩みや不安、子育てに伴う負担を少しでも解消や軽減できるよう、児童支援と同様に個別性を重視し、各家庭や保護者に応じた家族支援を行っている。	保護者から相談支援の希望があれば随時、申し出がなくとも必要性が高いと判断される場合はより積極的に行い、児童の発達を支えるパートナーとして保護者の信頼を得られるよう努めている。また、さまざまな家庭事情に対応すべく、保護者の就労保障やレスパイト等を目的に「預かり支援(延長支援)」を日常的に実施している。尚、長時間預かりが可能であることから、インクルージョンを補完する機能として、保育所等へ通えなくなった児童の受け入れが円滑に行っている。	当園が培ってきた発達支援及び保護者支援のノウハウやスキルを園内に限定せず、より多くの場で発揮できるよう、今年度の制度改変に伴い、地域の障害児童の支援の中核拠点のなるための機能整備を進めている。そのためには、当園が地域の子育て支援を担う社会資源であることを広く認知される必要がある。中核拠点としての役割や機能についての理解を促すための啓蒙活動も合わせて積極的に行っていきたい。
4	同法人が運営の児童入所及び成人入所の施設が同敷地内に隣接するため、卒園生を含め短期入所や入所利用している様子に触れる機会が少なくない。このため、職員は学童期・思春期・青年期以降の課題や必要な対策についての理解に繋がる情報や知識を得やすい。このため、幼児期だけにとらわれるのではなく、長期的視点で将来の社会生活に必要な「幼児期における育ち」と言う理解のもと支援に当たることができる。	保護者にとっても児童の将来に向けた視点を持つことは重要と考えるので、就学までの流れや就学後に役立つ情報提供、大人の障害福祉制度や高等学校卒業後の生活や暮らし等についての保護者向け研修を内容によっては外部講師を招いて行っている。また、そうした研修等には若手・中堅職員も適宜参加し、専門的な見識を広げると共に、保護者理解に努める機会にしている。	児童が当園を卒園後、学童期・思春期・青年期においてさまざまな課題を抱えた際、法人全体での横断的或いは切れ目ないサポートが可能となるよう、施設間連携や体制づくりをより進めていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育施設との交流の機会を持てなかった。	当園が提供する支援による療育的効果を見守るが最大限に享受するためには、毎日コンスタントに通園することが重要と考え、こうした考え方や方針を保護者にも理解いただいている。このため、保育所や幼稚園等と併行通園を現時点では原則認めておらず、地域の保育施設との繋がりを必然的に持ちにくい。	保育所や幼稚園等で困難を抱えた結果、当園に転園に至った児童は少なくなく、一律的な交流の機会を用意することが児童らの心身の発達に必ずしもプラスに働くと限らないと考えるので、交流の必要性や在り方は今後も慎重に議論していきたい。同時に、インクルージョン推進に尽力すべく、保護者の希望や児童の発達現況に即し、保育所や幼稚園等への移行支援の範囲で必要となる個別交流や保育体験の機会を保障する上で、期限付きでの併行通園等は今後必要に応じて柔軟に応じていきたい。
2	本体園舎の老朽化	将来的な本体園舎の建替えを目標としているが、財源確保の面が大きな障壁となっている。	本体園舎の全面改築を早々に計画することは難しいが、経年に伴って必要となる補強工事や、支援の質の向上を目的とするリフォーム等は順次進めていく。尚、本体園舎以外に「体育館」「多目的館」「プール棟」等を備えるので、これらを有効に活用する等、児童らが学ぶ環境整備に努める。
3	ホームページを日常的な広報の媒体として十分に活用できていない。	運用に係る経費や知識や技術を有する人材の確保等の問題から対応が難しい。	セキュリティ面、個人情報保護やプライバシーの問題などを熟慮した上で、ホームページを日常的な広報の媒介として活用していただけるか、また運用に係る経費及び人材確保等の問題解決が可能かについての検討を継続する。